



さぎ 鷺の宮卓話
みや 時の流れ

研究所長 太田敬雄

雉が鳴き鷺鳴いて風そよぐ
七十年の歳月を経て

我が家は市街地から離れ、田畑と梅林、栗林などに囲まれた所にある一軒家です。1984年にこの地に移り住んでから28年、この環境は大きく変わる事もなく過ごしてきたように見えます。けれども、移住当初は季節がくると我が家の庭で蛍が舞い、時には何処からともなく沢ガニが上って来るような所でした。残念なことに最近はその蛍も沢ガニも見られなくなりました。

それでも窓の外の鷺のさえずりに聞き入り、時には庭をわがもの顔で散策している雉の邪魔をしないように車を乗り入れるのを止めてしばらく待つような時もあります。今年の厳しい寒さで最近まで聞かれませんでした。ここ数日やっと鷺や雉の声をはじめ、鳥達のさえずりが聞こえるようになってきました。そんな中で私は70歳の誕生日を迎えました。

振り返ってみますと、結構いろいろとあった70年でした。もともと器用な人間ではありませんから、ずいぶんと失敗も繰り返しましたし、何度も嵐の中に立つような歳月も過ごしてきました。そして今、その70年の年月を土台として、今日を、また明日からの日々を自分らしく、私に与えられた「宿題」をやり遂げていきたいとの思いを新たにしています。

私の両親が住んでいた離れが、今は研究所の事務室になっています。この研究所の一室は、時には会議室となり、時にはニューズレターの発送などの作業所となり、また時には来客の宿泊所ともなっています。畳の部屋はなかなか活用範囲の広いもので、重宝しています。

その隣の、もともとは両親の寝室だった部屋に事務机や電話・ファックス、そして最近中古で仕入れた印刷機などが置かれた、雑然とした事務室になっています。

時の流れを余り感じさせないこの地に事務所があるため、ずいぶんと不便も感じてきました。けれども、ここに事務所を置いている事によって、世の中の変遷が非常に明確に見えてくることに最近気が付き始めています。時の流れが止まってこそいないものの、非常に緩やかに流れている環境だから、急激に変化を続けている日本の姿や世界の動きを感じる事が出来るのでしょうか。丁度線路脇に立って、金属音を残して走りゆく電車の動きをみているような効果が有ります。

私たちの世代は、がむしゃらに線路を走り続けることを良しとしてきました。けれどもこれからの時代を担う若者達が生きてゆく時代は、走るべき線路が崩壊し、草原の中に自らの足で途を付けていかなくてはならない時代です。それは大変自由な社会では有りますが、一人ひとりが強く自らの役割を意識しながら生き方を選択しなくてはならない、厳しい時代でもあります。

彼らも歩みを後方から支援しつつ、自らも亦大胆にその時の移り変わりに対応していかなくてはなりません。なかなか面白い時代が到来したと喜んでいきます。

認定NPOに向けての活動の中で、「こんなにも多くの方々のサポートをいただいている」という実感を与えられています。おかげさまで、2011年度に必要とされたご寄付は大勢の皆さまの温かいご協力で、その目標を達成する事が出来ました。有難うございます。

認定を取るためにはまだまだこれからなさねばならない書類づくりなど色々有りますが、大勢の皆さまのサポートに励まされて、必ず目的は達成する事が出来ると確信しています。皆さまのサポートを心に刻みながら、大胆に前進して参ります。研究所のモットーであります「相互理解に基づいた、より豊かで平和な地球を創るために」これからも皆さまの変わらぬご支援をお願いします。

～多文化交流～

1、 **多文化交流 in マラン2012** 2012年3月6日から14日にかけて、インドネシアのジャワ島東部に位置するマラン市で国立ブラウィジャヤ大学で日本語を専攻する学生と、日本の大学生の交流が持たれた。

～参加者の声～

常葉学園大学 望月友里衣

私はこのプログラムに、日本語教育を勉強する者として参加をしました。実際に日本語を勉強している外国人学習者と接する機会は今年の6月の実習以来なかったもので、これまで勉強してきたことを実践してみる良い機会となりました。(中略)日本語を教える技量はまだまだ未熟であると痛感しましたが、やはり日本語教育はおもしろいと思いました！

住んでいる場所は違うけれど一緒に笑ったり泣いたり友人がインドネシアや群馬にいるということだけで、これまでより前向きにいろいろなことに取り組んでいけると思います。このような機会を与えてくださり本当にありがとうございました。

高崎経済大学 蟻川里実 (フェイスブックより)
今回、多文化交流に参加して形にはないけど、なにかものすごいものを得た気がします。FacebookでもTwitterでも外国人の友達が初めてできました。自分の近況について話せる友達が日本以外にいるんだって考えるとほっこりした気持ちになります。そんな機会を与えてくださったことに感謝しています。



歓迎会での一コマ

高崎経済大学 松本光

沢山学びました。食事、お手洗い、家、ベッド、考え方、生活の仕方、お金、車、施設、時間・・・何からなにまで様々な違いがあり(中略)私には驚きの連続でした。うまく表現できませんが「違い」を楽しむ事ができて、「共通」なことも見つかるたびに一緒に喜ぶことができ、発見がすべて楽しかったです。言葉も文化も違うのに「楽しい」「悲しい」が共有できることにも驚いたりしました。最後の春休み、本当に貴重な体験をしました。きっと、4年生でなかったら、もう一度行きます。今回、こんな大きな学びがあったのも、先生のおかげです。本当にありがとうございました。この感動を後輩にしっかり伝えます！！ 本当にお世話になりました。ありがとうございました。

Vindy Eka YuliaNita (フィンディ): 多文化同窓生。その後文科省招聘留学生として群馬大学に留学。現在は帰国して働いている。) Facebook: 2012.3.14.

今年はhostfamilyとして、貴重な体験させて頂き、誠にありがとうございました。多文化交流ほど多くの人に幸いを与えるプログラムがありません。久しぶりに愛国心を引き出されました。自国のこと、自国の文化をもっともっと知ろうと、外国人に上手く伝えようとしみじみ思っています。多文化交流を通じて、外国人と接触する機会がない回りの人々も、やっと新しいことを勉強させ、視点を広げられます。日本のことを知りたい回りの人が増えています。言葉通じなくても、心が通じます。皆、家族です。このプログラムを本当にいつまでも続いて頂きたいです。このことも多文化の皆さんにも伝えたいと思います。

飯塚祐先生 (ブラウィジャヤ大学日本語教師 メールより抜粋)

こちらの学生も、大変貴重な経験ができて、モチベーションも上がっています。直接参加していない学生でも、授業訪問などの機会に学生同士のコミュニケーションがあり、本当にいい経験になったと思っています。このような交流プログラムの中に、日本語教育の一番大切なものの一つがある…。



熱いディスカッションが続く



スラバヤの空港にて お別れ前の記念写真

2、 多文化交流 in ぐんま 2012

安中市の「学習の森」にて 2012.3.30.~4.1.



「多文化交流 in マララン 2012」に続き、3月30日から4月1日の二泊三日。留学生の名、日本人学生（スタッフを含めて）15名が安中市の学習の森に集合。いつもの事だが、僅か三日足らずで人はこんなにも親しくなるのかと驚かされる。
←参加者勢ぞろい



さて、どこの国の人がこの国の衣装を来ているのでしょうか？

☆ 前神社のお祭りでも祭りもまた食の場。文化も宗教も超えて「食べる」。これこそ若さの象徴か。健康な胃袋が人の垣根を取り払う。
☆



群馬県立女子大学 清水理沙

私は昨年8月の多文化交流 in ぐんまに参加し、初めて「多文化交流」という活動に出会いました。そこで日本人、留学生ともに素晴らしい友人ができたことに喜びを感じ、いつかスタッフとしてこの活動に携わりたいと思い、その旨を太田先生に伝えました。今回スタッフという貴重な経験をさせていただきました。

多文化交流 in ぐんま 2012 は、高崎経済大学と群馬県立女子大学の学生有志が企画・運営しました。大学の枠組みを超えて集まった私たち、スタッフ11名が常に意識していたのは、スタッフも参加者であり、参加者はお客様ではないということです。また、スタッフと参加者全員で作りに上げることを心に留め、準備しました。

本番を迎え、出会ってから数時間足らずで和気あいあいと交流している姿が印象的でした。自由時間には、参加者のアイデアで韓国のゲームやインドネシアの伝統衣装を使ったファッションショーなど、その場その場で突然イベントが始まり、とても盛り上がりました。この型にとらわれない交流こそが、多文化交流の魅力だと思います。

2泊3日は短い時間に思えるかもしれませんが、しかし、一日一日をどう過ごすかで、絆で結ばれる友達を作ることには可能なはず。お別れ会で多くの参加者から、また会いたいという言葉聞くこと

ができました。スタッフ全員その言葉に感動し、今までの努力が報われた瞬間だと思います。3日間で終わらせない交流、これが私のスタッフとしての意気込みでした。参加者全員がこの3日間で出会った友達と交流を続け、再会する日が来ることを願っています。

最後に太田敬雄先生、関千景さん、食事ボランティアのみなさん、多文化交流にご協力いただいた全ての方々に感謝を述べたいと思います。たくさんの方々のおかげでこの多文化交流が作られているとスタッフをやってみて強く感じました。本当にありがとうございました。

多文化交流の種として—多文化交流 IN 群馬—

中央情報経理専門学校高崎校 魏 弘誠 (中国 上海出身)

世界で何百もの国がある、一つ一つの国は自分の文化を持っている、何千年歴史で積み重ねるの濃厚な重い文化がある、最近展開の新進文化もある、どれもこれも知れば知るほど面白さを感じえる。宗教、言葉、文明、習慣、風俗、食事、さまざまなことは数えつくせない。「知りたい、ほかの国の人と友達になりたい、彼らの国へ行きたい、同じ年齢の少年少女が何を遊んでるか、彼らのファッションな服がどんな様子だか、私が着るなら似合うかどうかかな」。グローバル化に従って色々な質問は若い人たちの心根から起きた、けれど、体験のチャンスや方法や場所は本当に探し難いである。こんな現象があるからこそ多分化交流の重要性を見える、言わば世界を人々に教えることである。

僕は心から IIMS と出会った事を幸運と思う。中国から一人で日本に勉強しに来た、全然知らない町、親の守りから離れ、不安と迷う常に感じる。「友達がほしい、話の相手がほしい」、もう何度心で言ったかわからない。でも、学校と寮とバイトを組み立てる三角生活は友達を探す余裕を渡せない。

幸い僕は太田先生の多分化交流参加した、この活動を契機として、僕はたくさん素敵な人と会った、もちろん友達もなった。誠に有難う御座いました。それ以上、日本人だけでなく、世界中色々な人と友達になった。これのおかげで、皆さんの中国で知らなかったの一面も見た。日本人の可愛さ、韓国人の優しさ、マライ人の活力、インドネシア人の熱情、ほかにもまだまだある。

しかし、多分化交流は単純な遊ぶ事ではない、その中で更に大切な極意を含めている。

世界中の人々をお互い理解理解させる、戦争と敵対を源から消して、みんなの笑顔を作って、これこそ参加者の皆さんは絶対忘れることのないものである。私たちまだ若い、未だ大きな可能性を持っている、自ら平和の芽として、自分の国で天を支えるのような木になれば、太田先生から貰った貴重な思想を自分のものとして、自分のやり方を実践しよう。

この平和を求める願いさえあれば、僕が自分を信じる、皆さんを信じる、僕たちの後輩を信じる、遠くない未来、地球の各地、笑顔と理解必ず森のような至る所すべてである。

☆ ☆ ☆ ☆ ☆

太田先生、返事遅れた申し訳御座いません、こんな慌てて書いたの文章で必ずいっぱい間違いがあります、直すべきところ、ぜひ改正してお願い致します。

太田先生からもらった思い、わたくし必ず一生心に刻み。ここで実際に書きたい話は海の広さようなある、皆さんに伝えたい多分化交流のメリット、感想は山の高さようにある。でも、行動いつも話しより効果が出る。何が僕できることがあれば、ぜひお教えください、力尽くまで頑張ります。^^

最後、太田先生の願い早く達成を祈り、太田先生と千景姉様にご健康を祝福いたします。

注：弘誠君は昨年の夏の「多文化交流 in ぐんま」に続いて二度目の参加です。去年、複雑な話を日本語でする事は出来なかった弘誠君は、多文化を経験することで強く日本語を身につけたいと思うようになったと言います。今回の寄稿は依頼して2日目に送ってくれた書き下ろしです。彼の文の持つ力を削がないように校正はほとんどせず載せる事にしました。、彼らしい勢いと決意を読み取っていただければ幸いです。(太田敬雄)

「多文化交流」との出会い—充実感と寂しさと—

群馬県立女子大学 富岡千尋

今回は、この「多文化交流 in ぐんま」に初めて参加させていただきました。実際に始まるまで、この「多文化交流 in ぐんま」のプログラムについて全く知らず、何をするのか、どんな国籍の方が集まるのか、分かりませんでした。たった3日間のプログラムでしたが、あっという間に過ぎていき、最終日には、充実感と終わってしまう寂しさで胸がいっぱいだったことを覚えています。みんなで一緒に料理を作ったり、だるまの絵付け体験、レクリエーションなど、さまざまなプログラムを通して、個々の絆が強まっていくのを感じました。夜は、遅くまで語り合い、国籍を超えて、お互いの文化だけでなく、怖い話や占いなど、さまざまな話をしました。お互いの文化の違いに驚いたり、同じご飯を食べてくれないことで笑ったり、一緒に温泉に入ったりとすべてが新鮮な体験でした。3日間ではもの足りないくらい多くの思い出が詰まったこの「多文化交流」に出会えたことに感謝でいっぱいです。貴重な経験をさせていただき、ありがとうございました。

<食事ボランティア 田島絵美さん> 留学生や日本人学生に参加して貰える金額に設定するため、食事は基本的には食事作りボランティアの皆さんによって作られています。いつも食事作りボランティアさん達のおかげで素晴らしい交流の基礎が作られています。初めて食事ボランティアとして協力して下さった田島絵美さんから、嬉しいメールが関さんに届けられました。以下、田島さんからのメールです。

せきさん、こんにちは～。
多文化交流 in ぐんま では大変お世話になりました！すごく勉強になったし、めちゃくちゃ楽しかったし、日々フラットな生活にとっても良い刺激になりましたよ！！

食事ボランティアの皆さんには本当に良くして頂き有難い気持ちでいっぱいです。それに玲子さんを始め、ベテラン奥様方の手際も学び気の持ちようや元気までもらいましたよ～。
全員の方とまたお会いしたいなあ。
太田先生も色々お話してくださってどのお話も興味深いし、深いイ話もあるし、自分にとっては刺激的でした。特に多文化交流のお話をされるときの太田先生の目は色々な可能性への熱を帯びているようで、もう聞いているだけでワクワクした気持ちになった {私} でした。
学生さんたちも、私の同い年頃に比べたらぜんぜん気配り上手でみんなで協力して交流会を楽しんでいる様子が伝わってきました。
外ですれ違おうと挨拶をしてくれるコ、みんなを一生懸命取りまとめようとするコ、どの学生 〇

さんを見ても、心底応援したい気持ちになりましたよ～。これって親心?! (笑)
私にとってはどの様子を取っても、関さんの細やかな気配りと準備、そしてご指導あつての交流会だったと思っています。(もちろん学生主体、という前提はありきで) <一部略>
本当に、とっても楽しい交流会をありがとうございました!!!
そして {私}、食事ボランティアながらちゃっかり交流もしまして (笑) 2 日目の夕食で隣席になった ホウ シイクちゃん と ネイ ジュンちゃんと連絡先を交換し、食事の約束をしました。二人の新年度が落ち着いたところに、我が家で家庭料理ごはん会をしようと思うのももちろん関さんも参加でよろしくお願ひします!
この交流会に参加して、留学生が日本を選んで留学してくれたことに感謝の気持ちが強くなった {私} でした。

☆ ☆
メール文のため、行間を修正するなど一部変更させていただきました。

シリーズ 対談「私の生き方」

色々な分野の方々に、対談形式で「私の生き方」を語っていただく予定です。皆さん、気軽にご参加ください。

1、第1回 上野咲恵さん

日本比較文化学会中部支部例会で、一年間伊東温泉で芸者としてフィールドワークされた結果を研究発表された上野さん。研究発表よりも少し軽い形での経験談をお聞きしたくてお願いしました。3月末の忙しい時期でしたが、4月からは就職されるとのことで、年度末の3月24日にお願いしました。なかなか興味深いお話で、参加者が少なかつたにもかかわらず、質問が途絶えませんでした！



はるばる静岡からお出で頂いた上野咲恵さん。お話は期待通り興味深いものでした。詳細は3月28日の上毛新聞の記事でご覧下さい。



2、第2回 シャーリー・ジュティーン先生

ジュティーン先生は60年前に宣教師として来日され、東洋英和女学院短大・大学でキリスト教教育と保育学を教えてこられ、今は引退して群馬にお住まいです。先生のお話は4月21日、午後2時から安中市の「まなばるXD」で、皆様の参加をお待ちしています。詳細は同封のチラシで。

3、第3回 小坂景子先生

小坂景子先生は研究所発足後、かなり早い内からつながりの有った方です。最初は脱サラして農業を始められた方として！その方が今では弁護士として活動を始められた。5月19日(土)午後2時から。

☆会費納入とご寄付の感謝☆

会員の皆様はじめ、ご協力を呼びかけさせていただいた多くの方々には、思いをはるかに超えたサポートをいただき、心から感謝しております。

年会費は個人が2000円です。いつものように会費をすでに頂戴している方にも振込用紙を同封させていただきますが、これはご寄付下さる方のため、また新入会員をお誘いいただくための振込用紙です。決してご寄付を強要するものではありません。

☆領収書発行について☆

これまで、研究所では会費・ご寄付に領収書を発行しておりませんでした。ニューズレターにお名前を記させていただく事で領収書に代えさせて頂いておりました。しかし、多くの会員以外の方々からもご協力をいただいていることに鑑み、2012年度からは会費を超える額のご寄付には領収書を発行させていただくことに致します。なお、会費につきましてはこれまで通り、ニューズレターに記載することで領収書に代えさせていただきます。**〈お詫びと訂正〉** 2012年2月号に幾つかの記載漏れがありました。お詫びしてここに記させていただきます。(敬称略)

〈入会〉小川美幸 〈会費〉花盛勲一 〈寄付〉齋藤和子、細川忍、小川美幸。

会費・寄付(2012. 2. 1~3. 31)

〈敬称略・順不同〉

〈入会+会費〉狩野喜美雄、長谷川貴尚 (12)、皆さまのご参加、有難うございます!

〈会費〉狩野真由美 (12)、野口紀子 (11・12)、関千景 (12)、小山直美、山崎恵美子 (12)、前田浩、吉村耕治、櫻田桂一郎 (11・12)、小川光明 (10-12)、近藤佳代 (12)、熊倉浩靖 (12)、山縣英明 (12)、内田穂積 (12)、大江士 (12)、山縣英明 (12)、森泉英司 (11・12)、森泉孝行 (12)、永田強一 (12)、木村隆 (12)、木村真理子 (12)、前澤優子 (12・13)、高山昇 (12)、徳増弘子 (12)、長谷川昇 (13)、楠木紫穂 (10・11)、遠間徹也 (10・11)、五十嵐由紀子 (12)、皆様の変わらないサポートのおかげを持ちまして活動を徐々に広げていく事が出来ております。なおカッコ内の年度記載の無い方は2011年度分です。

〈「インドネシア招聘」〉菅ヶ谷純弘 今年度は夏にインドネシアの学生を数名招聘すべく、準備を進めております。3名から4名の学生を一週間ほど招聘する予定です。

〈マナパル・復興支援〉内田浩良、菅ヶ谷純弘、木村隆、木村真理子、まなばる、頑張っています。

〈一般寄付〉狩野真由美(x2)、森泉寿義雄、太田琢雄、金井美由紀、関千景、狩野喜美雄、太田敬雄、岡部喜久子、新堀均、北川秋児、太田信雄、岡部康之、久保正幸、押田栄司、上野咲恵、山崎恵美子、多田明美、吉村耕治、櫻田桂一郎、飛松和子、近藤佳代、親泊治、山縣英明、佐藤直樹、狩野妙子、タコリ・マリオ、米田怜子、水嶋和子、近藤邦彦、橋本祥乃、森泉孝行、永田強一、宇留田貞子、佐藤道子、長谷川貴尚、五十嵐典子、菅ヶ谷純弘、菅ヶ谷純一、巢山史枝、篠原節子、大江士、高山昇、徳増弘子、中原俊明、水澤裕子、長谷川昇、楠木紫穂、村井田和夫、山内信幸、松本英子、五十嵐由紀子、黒滝明美、川上雪子。

有難うございます。昨年度は認定 NPO 法人格を取るために皆様にご協力をお願いしてきましたが、実に大勢の方々にご協力を申し出いただきました。改めて御礼申し上げます。なお、寄付とも入会ともご意思が表示されていない場合は寄付扱いをさせていただきました。その上で、ご寄付いただいた皆様に御礼の気持ちを込めて当面はニューズレターをお送りさせていただきます。会員として、あるいは賛助会員として、これからも国際比較文化研究所を支えていただければ幸いです。

編集後記： 人の性格にも寄ると思いますが、私は「習うよりも慣れろ」タイプで、このニューズレターもひたすら我流でがむしゃらに作り続けて13年目に入りました。昔のものとは比べると少しはましになってきましたが、まだまだです。今年も「せめて今年度はもう少しましなものを」と思っています。

今年も研究所として幾つか新しい企画を考えております。次号ではお知らせ出来ると思います。お楽しみに。(T)

Newsletter 発行：特定非営利活動法人国際比較文化研究所

事務所：〒379-0124 群馬県安中市鷲宮3413-3

電話：027-382-5998 FAX：027-382-6393

e-mail：mtharunac@xp.wind.jp

HP：<http://www8.wind.ne.jp/mthc>

MANAPAL ブログ：<http://manapal.gunmablog.net/e80854.html>

郵便振込口座番号：00510-0-61974 名称：国際比較文化研究所